

# 県 政 協 議 会

令和 8 年 5 月 2 6 日 (火)

午前 1 0 : 3 0

- 1 . ツキノワグマによる被害防止対策等の状況について
- 2 . 男鹿市内における小形風力発電設備の事故について
- 3 . 中東情勢による県内経済への影響について
- 4 . 秋田県得旅キャンペーンについて
- 5 . 秋田県プレミアムチケットについて
- 6 . 令和 7 年度の大雪による農業被害額の確定と復旧状況について
- 7 . その他

## ツキノワグマによる被害防止対策等の状況について

令和8年5月26日  
生活環境部

### 1 クマの目撃件数、捕獲頭数及び人身被害の状況（令和8年5月25日現在）

#### (1) 目撃件数

(単位：件)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R8	395	615											1,010
R7	85	397	825	1,055	766	926	5,810	3,333	312	30	24	29	13,592
R6	70	175	208	204	222	83	37	63	115	133	7	23	1,340
R5	27	142	215	255	253	636	1,472	583	80	15	20	25	3,723
R4	19	104	260	197	91	40	11	4	1		1	2	730

#### (2) 捕獲頭数

(単位：頭)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R8	17	9											26
R7	12	34	123	234	375	495	1,109	472	26	3	1	2	2,886
R6	16	45	72	96	82	39	20	24	12	2		1	409
R5	29	26	62	181	323	526	818	336	16	9	3	5	2,334
R4	26	21	45	126	121	50	13	25	13	1	1		442

※1 春季管理捕獲（有害捕獲を除く）の状況（令和8年4月30日現在）

実施済：18市町村（出動回数215回、12頭捕獲）

今後実施予定：2市町村

未定：3市町村

※2 クマの捕獲数の公表

捕獲情報の見える化を図るため、市町村ごとの捕獲数（速報）の公表を開始した。

掲載ページURL：<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/96304>

(3) 人身被害の状況

(単位：人)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R8		1											1
R7		1	1	2	4	11	37	10	1				67
R6		5	1	2	2			1					11
R5		3	2	4	3	16	34	8					70
R4		3	3										6

※ 今年度の人身被害の概況

令和8年5月5日、由利本荘市において、田んぼの見回りをしていた40代男性がクマに襲われ負傷

## 2 最近の対策の実施状況

### (1) 出没抑制に係る取組

- 電気柵の導入支援 : 21市町村が導入支援に係る補助を予定  
※10市町村で計60件申請あり(5月20日現在)
- 緩衝帯の整備 : 20市町村、90箇所、390ha(うち18箇所、50haで整備完了)  
(令和7年度実績:15市町村、51箇所、213haで実施)
- 河川での藪の刈り払い・伐木 : 26河川、約343,000m<sup>2</sup>  
(状況に応じて見直しを行いながら実施)
- 学校での誘因樹木の伐採 : 県立学校17校が伐採処分済み、1校が5月末までに完了する見込み

### (2) ドローン等を活用したクマ対策実証事業

クマの出没リスクの早期把握やエリア監視の高度化など、実効性、普及性の高いクマ対策手法の確立を図るため、ドローン等を活用した新たな技術の実証を行う。

【実施日程】企画1件当たりの予算上限500万円、3件程度採択予定

- 公募開始 : 令和8年5月15日(金)
- 企画提案書の提出期限 : 令和8年6月1日(月)
- 契約締結 : 令和8年6月下旬(予定)

【想定される企画提案のイメージ】 企画1件当たりの予算上限500万円、3件程度採択予定

<危険を伴う捕獲作業のサポート>



<管理強化ゾーンでの監視・追い払い>



※画像は Gemini により作成

(3) 人とクマとの共生を考えるフォーラムの開催

期 日：令和8年4月26日（日）

内 容：クマの出没状況等に関する講演やクマとのすみ分けをテーマとしたパネルディスカッション

参加者数：623人（同時配信の視聴者含む）

(4) 秋田県・市町村協働政策会議の開催

5月18日に開催した秋田県・市町村協働政策会議において、引き続き県と市町村が連携して総合的な被害防止対策を推進していくことを合意した。

【合意事項】

- 管理強化ゾーンにおける管理捕獲の強化
- 農作物等での被害防止体制の整備

- ガバメントハンター等の確保・育成
- 情報発信の強化と通学時の安全確保の徹底

(5) ツキノワグマ被害防止対策本部会議の開催

最近の目撃件数の増加や人身事故の発生を踏まえ、今後の対策等を協議するため、知事を本部長とする「ツキノワグマ被害防止対策本部会議」を開催した。

期 日：令和8年5月25日（月）

内 容：出没傾向の分析と人身事故の概況、各部局の取組状況と今後の対策

参 加 者：知事、副知事、関係部局長等（総務部、生活環境部、農林水産部、教育庁、警察本部）

今後の対応：登下校時の安全確保、電気柵の設置や捕獲体制の整備などについて市町村との連携を強化する。

## 男鹿市内における小形風力発電設備の事故について

令和8年5月26日  
産業労働部

## 1 事故の概要

- ・ 事故発生日（推定） 令和8年3月7日（土）
- ・ 事故の状況 タワーが倒壊
- ・ 発電事業者 (株)ヤマサ興産（大仙市）
- ・ 発電所所在地 男鹿市野石
- ・ 運転開始年月 平成31（2019）年1月
- ・ 発電規模 19.5kW×1基
- ・ 被害状況 なし

## 2 経緯

- 3月16日 発電事業者が現地でタワーの倒壊を確認
- 3月19日 発電事業者が国に事故発生を報告
- 4月27日 住民からの連絡により、男鹿市が当該事故の発生を覚知
- 5月7日 発電事業者が男鹿市に事故報告書を提出、男鹿市より県に事故の情報提供
- 5月14日 男鹿市より発電事業者に対し適切な保守管理の徹底及び事故等の緊急時の連絡について要請
- 5月19日 県から発電事業者に対し、早期の事故原因の究明と再発防止策を要請  
小形風力発電設備が設置されている市町に対し、発電事業者への安全管理の徹底と事故発生時の情報共有を依頼

## 3 今後の対応

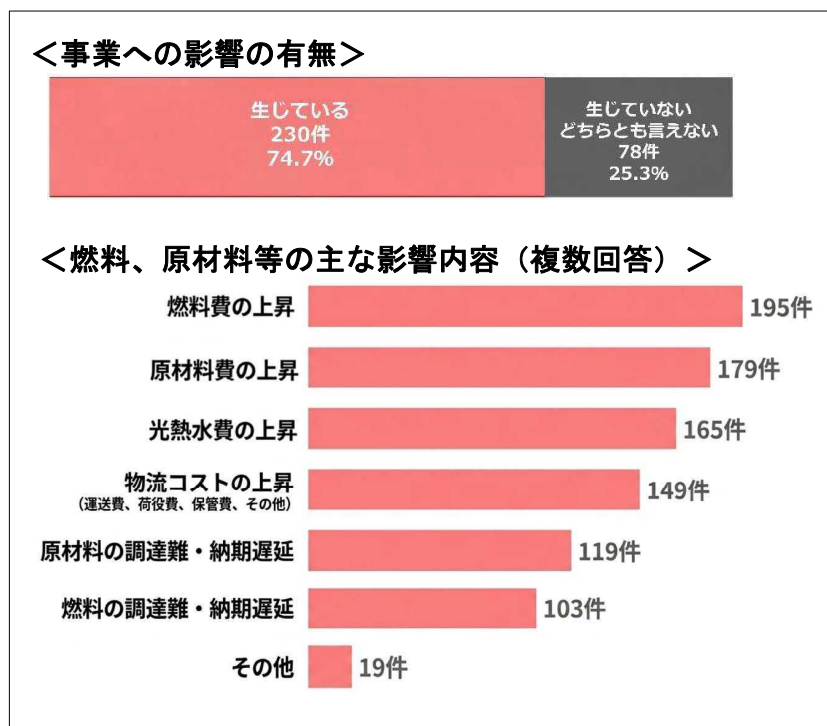
男鹿市で発生したブレード折損事故及び今回の事故を踏まえ、経済産業省に対し、事故原因の早期究明や安全基準等の見直しのほか、重大事故発生時の地元自治体への報告の義務化について、5月29日に要望活動を行うこととしている。

## 中東情勢による県内経済への影響について

令和8年5月26日  
産業労働部

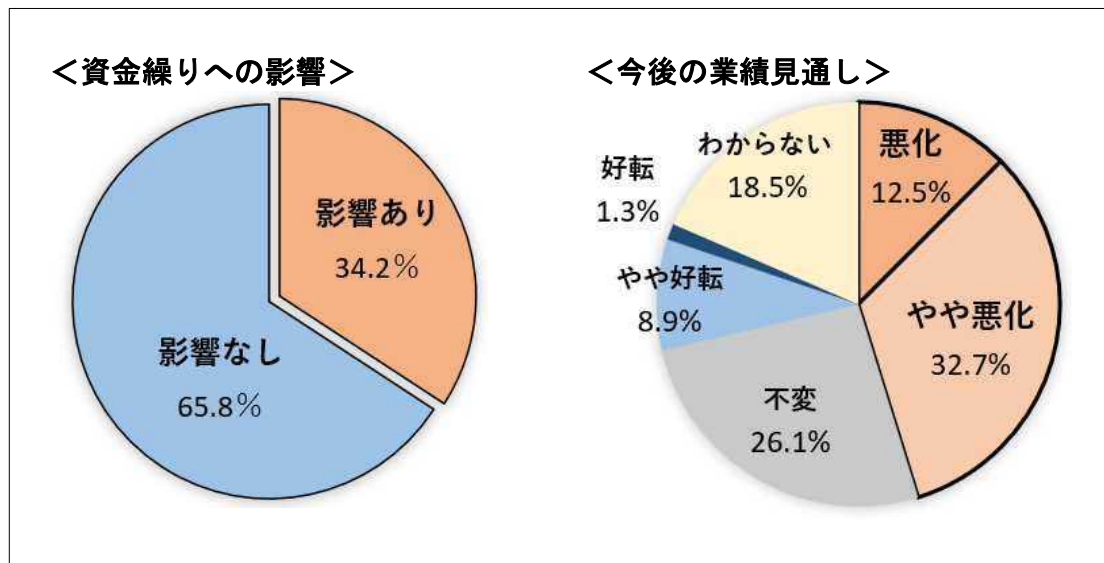
### 1 概要

- 中東情勢の長期化により、約75%の企業が燃料・資材の価格高騰や調達難などの影響を受けており、今後の企業経営の悪化が懸念される。
- 県及び商工団体等の相談窓口には、調査結果と同様の相談が寄せられている。(5月22日現在214件)



**<業種ごとの主な影響>**

製造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチック樹脂の納期遅延により6月以降減産のおそれ（プラスチック加工）</li> <li>・塗料の調達難による製造遅延、納期の延期（金属加工）</li> <li>・接着剤や溶剤、塗料の調達難により10月以降生産調整のおそれ（木製品）</li> <li>・包装資材の納期遅延により製造停止のおそれ（食品）</li> </ul>
サービス・小売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗料の納期遅延による車の引渡遅延（自動車整備）</li> <li>・電気代の上昇による営業時間短縮（小売）</li> </ul>
運輸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジンオイル・尿素水の調達難により運行調整等のおそれ（運送）</li> <li>・包装資材の不足による配送の遅延（運送）</li> </ul>
建設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接着剤の調達難による工事中断や工期遅延（内装）</li> <li>・塩化ビニル製品の調達難による工期遅延（板金）</li> </ul>



- ・調査期間：5月12日（火）～15日（金）
- ・回答：308社  
（製造120、サービス・小売104、  
運輸51、建設28、その他5）

## 2 今後の対応

- 国に対し、供給偏在や目詰まりの解消など、石油由来製品等の安定供給体制の構築や、資金制度の創設を含めた事業者の経営安定に向けた支援について要望する（5月29日 経済産業省）。
- 県内企業の状況把握と関係団体と連携した相談対応に努め、国の経済対策などの動向を注視しながら、必要な支援策を講じていく。

## 秋田県得旅キャンペーンについて

令和 8 年 5 月 2 6 日  
観光文化スポーツ部

観光閑散期の旅行需要を喚起するとともに、物価高騰等により厳しい経営環境にある県内宿泊事業者を支援するため、今月 7 日から、オンライン宿泊予約サイトを活用したクーポンの配布を開始している。

販売が好調なことから、第 1 弾のクーポンを追加配布し、更なる県内誘客の促進を図っていく。

### ○キャンペーンの概要

第 1 弾：令和 8 年 5 月 1 5 日～7 月 3 1 日

第 2 弾：令和 8 年 1 1 月 1 日～令和 9 年 2 月 2 8 日

宿泊料金	宿泊クーポン	アドオン・クーポン
6,000 円以上	1,000 円割引	3,000 円割引
10,000 円以上	3,000 円割引	5,000 円割引
15,000 円以上	5,000 円割引	7,000 円割引
30,000 円以上	10,000 円割引	12,000 円割引

※アドオン・クーポン…宿泊のほか、体験・食・地酒・お土産がセットになったクーポン



得旅キャンペーンメインビジュアル

### ○クーポンの取得状況（5月25日時点）

取得率 86.6%（クーポンの発行総額に対する取得額の割合）

### ○メディア等での広報展開

これまでに日本テレビ（DayDay、ZIP!）やテレビ朝日（グッド！モーニング）、フジテレビ（ノンストップ!）など、主要テレビ局の番組内で取り上げられている。6月からは、JR仙台駅での大型広告の掲出や東北4県（青森・岩手・宮城・山形）のテレビ情報番組を活用した広報などを行っていく。

## 秋田県プレミアムチケットについて

令和 8 年 5 月 2 6 日  
産 業 労 働 部

秋田県プレミアムチケットは、今月 1 9 日までに電子チケット及び紙チケットがともに完売したことから、登録店舗の拡大など更なる利便性向上に努め、県民の利用促進を図っていく。

### ○ 概 要

	電子チケット	紙チケット
発行数	70万セット（42億円）	30万セット（18億円）
販売価格	1セット5,000円（1,000円×6枚）	
販売状況	完売（5/19）	完売（4/8）
登録店舗数（5/18時点）	2,877店	3,679店
使用期限	10月30日まで	
使用状況	約70%（5/14時点） ①スーパーマーケット等 44.4% ②飲食店 15.3% ③ドラッグストア等 10.4%	約22%（4/30時点） ①スーパーマーケット等 65.8% ②日用品小売店 9.1% ③ドラッグストア等 6.4%



### ○ 今後の対応

商工団体・商店街組合等への働きかけや、事務手続きの簡素化等を通じた登録店舗の拡大により、一層の利便性向上を図ることで、物価高騰下における県民生活の支援と、切れ目のない消費喚起につなげていく。

## 令和7年度の大雪による農業被害額の確定と復旧状況について

令和8年5月26日  
農 林 水 産 部

### 1 農業被害額（確定）

○ 被害総額：17.7億円（うち生産施設 15.0億円、樹体 2.6億円、その他農作物等 0.1億円）

#### <被害の概要>

（単位：ha、棟数、億円）

区分	被害面積 被災棟数	被害額
農作物等	0.4	0.1
樹体	146.0	2.6
りんご	85.3	1.2
日本なし	27.7	0.7
もも	31.4	0.6
その他	1.6	0.1
生産施設	—	15.0
パイプハウス等	657	13.9
果樹棚	27.5	1.1
計	—	17.7



水稻育苗用パイプハウスの損壊（北秋田市）



日本なしの果樹棚の損壊（大館市）

### 2 雪害対策緊急支援事業（県）の活用状況

- 4月末現在の申請件数は49件。今後、春作業が終わり次第、申請が行われる見込み。
- 円滑に補助金を交付できるよう、月末ごとに順次申請を取りまとめ、事務手続きを進めている。

### 3 被災した作目の復旧状況

#### <水稻>

- 苗については、JAの育苗施設での生産や地域内での融通等により、必要数量が確保されている。
- 育苗ハウスについては、資材の調達や作業員の確保ができず、今年の春作業までに復旧できなかった農家もいたことから、翌年度の作付けに間に合うよう、順次復旧作業を進めていく。

#### <畜産>

- 比内地鶏の鶏舎については、素雛導入に間に合うよう、計画的に復旧が進められている。

#### <果樹>

- 日本なしについては、国から専門家を招へいし、樹体修復等に関する講習会を開催したほか、果樹棚は、仮支柱による応急復旧を実施しており、収穫後の秋以降に本格的な復旧作業を行う予定。
- りんごやももなどについては、「剪定」や「補修」を重点的に実施し、樹体の早期復旧に努めている。
- 補植が必要な樹園地については、JAが確保した春植え用の苗木を定植している。

### 4 今後の対応

#### <資材・生産施設>

- 中東情勢の影響により、今後の資材の円滑な調達に懸念があることから、その解消に向けて県内の資材メーカー等に対し働きかけを行うほか、関係機関と連携し、資材や作業員の安定的な確保について支援する。

#### <果樹>

- 被害程度に応じた着果量の調整や防除の徹底、補植苗へのかん水などについてきめ細かな助言・指導を実施する。
- 人気が高く、確保が困難な品種（宮美ふじ・紅虎）の苗木が不足していることから、令和9年の春植えでの対応に向けて、今夏を目途に需要量を把握し早期発注するほか、代替品種への切替えを生産者に働きかける。
- 長期的には、耐雪型樹形の普及や省力栽培の実証を通じ、雪害に強く持続可能な産地への転換を図る。



損傷した樹体の修復等講習会（鹿角市）



日本なしの果樹棚の応急復旧（大館市）